

畠山裕樹作「あるソーシャルワーカーの悩み」(前編)―休みたい男―

●配役

アナウンサー	天野真美
佐川純一(医療ソーシャルワーカー・30代後半)	中尾隼人
佐川江理子(純一の妻 30代後半。クリスチャン)	大橋めぐみ
佐川美希(純一・江理子の長女。小1)	中橋文
純一の父(純一の父 70代。引退牧師)	小川政弘
純一の母(純一の母 70代。クリスチャン)	野村佳代
池田真理(緩和ケア病棟患者 末期がん 40代)	中橋文
真理の母(70代)	野村佳代
竹田医療相談室長(50代)	畠山裕樹
鈴木牧師(50代 真理が通っている教会の牧師)	東 裕之
山岡(入院患者 70代 認知症)	小川政弘
山岡の息子(40代)	東 裕之

(中橋祐貴、村田泉、岡田久美子)

アナウンサー	ここは北海道のとある大きな病院のホスピス=緩和ケア病棟。緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族一人一人の体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように、身体的、精神的にも支えていくケアのことです。今日も会議室では医師や看護師、リハビリ担当者などのスタッフが患者さんに関するやりとりを繰り返しているが、なんとも重苦しい空気です。
佐川純一(ナレーション)	俺の名は佐川純一。医療ソーシャルワーカーとして、この会議に参加していた。
竹田室長	よし。緩和ケア病棟の池田真理さんはとりあえず病状も少し落ち着いているので、退院していいとの院長の判断だ。佐川、近々退院方向ってことでいいな？
純一	え？ しかし池田さんは、すい臓のがんが肝臓にまで転移して更には骨にも転移している可能性があるかと伺っています。現在の体の状態ではまだ退院は時期尚早かと思いますが…。
竹田室長	本人の病状を見て院長が判断したことだ。君も早く池田さんの具体的な退院日決めや、自宅でのホームヘルパーなんかの福祉サービスの調整をしておくことだな。
純一	お言葉を返すようですが、池田さんの病状を考えるともう少し入院していた方がいいかなと。ほら、あの方一人暮らしだし、お母さんともあまりうまくいっていないみたいだし、自宅での生活の支援体制を整えるにはまだ時間が必要だとも思うんですよ。一時的な退院のような形じゃダメですかね？
竹田室長	甘いよ君は！ 院長が退院と言ったら退院なんだ！ 君の採用面接の時、言っ

たはずだぞ。「病院では医者がトップ。医療職が経営しているってことを忘れるな」と。

純一 …分かりました。ではそうします。

竹田室長 分かったら、さっさと池田さんと面談して退院日決めとサービス調整、退院の書類を作成しろ。それと今日の会議録や患者の報告書は今日中に作っておけよ。あ、それと日曜日の岩崎院長の講演会とそのあとの打ち上げもよろしく頼むぞ。

純一 え?! すみません、以前お伝えしたように日曜日はちょっと難しいんですけど。うちの家族がクリスチャンで日曜日は教会に行くんですよ。私は違いますが、今度の日曜はなんか特別の集会みたいで、行かないと妻ががっかりするんで…。

竹田室長 君は何を言ってるんだ！ 教会と仕事どっちが大事なんだ！ まして今日は院長命令に盾突くような失態を犯しておいて講演会に不参加とは。仕事をなめてるにも程がある！ もういい、分かった！ 君にはそれなりの評価をしておく。給料やボーナス査定も覚悟しておくんだな。

効果音 (ボタンとドアを閉めて出ていく)

純一(モノローグ) (ため息)なんなんだろうな、病院やソーシャルワーカーって…。患者のためじゃないのかよ。それに休日まで講演って…。毎日の仕事だけでもフラフラなのに…。妻には「今度はお願いな」なんて念を押されるし…。これじゃ体が参っちゃうよ。その前に心が壊れちゃうかも…。だけどほんとに給料減らされたりしたら生活費が…。マズいなあ…。

アナウンサー 先程話題に上った池田真理は、この緩和ケア病棟の患者の一人で、彼女はクリスチャンでした。昼寝から覚め、ベッドで少し体を起こしている彼女のもとには、彼女の教会の鈴木牧師が訪れ、二人は聖書をひも解いていました。

鈴木牧師 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそイエス・キリストにおいて神があなたがたに望んでおられることです。」(4テサロニケ5:16-18) アーメン。

真理 「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。…たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。」(詩篇23篇) ああ…先生、いつもありがとうございます。今日も神様が私のことを気にかけてくださっていると思うだけで心が安らぎます。

鈴木牧師 そう。池田さん、神様はいつもあなたのことを見守ってくださっています。だから安心して自分をゆだねなさい。今日も共に祈りましょう。

音楽 (BGM) (二人、祈っている)

効果音 (純一が病室のドアを開け入ってくる)

純一 池田さん…あ、お客様でしたか。失礼しました。

真理 あら、佐川さん。いつもありがとうございます。先生、こちらいつもお世話になっているソーシャルワーカーの佐川さん。こちらは私が通っている教会の牧師で

いらっしゃる鈴木先生です。毎日私のために病室までお祈りにきてくださるんですよ。

鈴木牧師　これはどうも初めまして。いつも池田さんのためにお世話してくださってありがとうございます。

純一　そうでしたか。やはりクリスチャンにとって日々のお祈りは欠かせないものですね。

鈴木牧師　失礼ですが、あなたもクリスチャンなのですか？

純一　あ、いえいえ！ 私はいわゆる無宗教で。たまたま妻も私の両親もクリスチャンなので、キリスト教に少しなじみがある程度です。

鈴木牧師　そうでしたか。ご家族がクリスチャンとは。ここで私たちが出会ったのも神様のお導きでしょう。そして、あなたもご家族の良い影響を受けていらっしゃるんですね。ソーシャルワーカーという仕事を選ばれたのも、ご病気の方々への愛のゆえなんでしょう。

純一　いやいや、愛だなんて…。今は何というか…その…愛より生活が優先になっているというか…。聖書に書かれてる「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」、あの言葉好きだったんですが…。あれ、いわば福祉の土台となる愛の精神ってやつですよ。あの気持ちは、どこにいつてしまったんだろうなあ…。今はなんか、ただ食べるために仕事をしているような虚しさを抱えながら働いている感じです。あ、すみません。初対面の方にこんな話を…。

鈴木牧師　いえいえ。愛の実践は現代社会では確かに難しい部分があるかもしれません。そんな中で色々とお悩みになっておられるようですね。そうだ、一度私たちの教会に来てみませんか？ 聖書のマタイの福音書 11:28 でイエス・キリストがこう言っています。「全て、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」少しでもあなたの背負っているものを軽くして差し上げることができればと思います。

純一　確かに疲れてますね。いや、“疲れ切ってる”、かな。休ませてもらいたいのは間違いありません。

真理　教会の方々皆、良い人ばかりですよ。何かを強いられることもないし、賛美歌や明るい笑い声が絶えないし…。ただそこにいるだけで、気持ちが休まるっていうか…。私も、自分ががんだって分かった時、たまたま心細くなって、ふつと、小さい頃に行っていた教会に行ってみようと思ったんです。

純一　そうだったんですか。う～ん、今までは、妻に勧められて義理で行ってたけど、1今度はまじめに行ってみるかなー。

真理　ええぜひ！ …ところで佐川さん、私に何のご用でしたの？

純一　あ、そうだ！ ごめんなさい。ちょっともろもろのお話がありまして…。でも、牧師さんとまだお話があるでしょうから、またにしましょうか。

鈴木牧師　いえ、私はもう帰るところでしたから、かまいませんよ。池田さんはこれから面談

するのにお体は大丈夫かな？

真理 あ、はい…そんなに長くなければ…。

純一 そうですか。ではなるべく短時間にいたしますので、あちらの面談室で…。

ナレーション 夜の10時過ぎ、池田さんとの面談も含めようやく一日の仕事を終えた俺は、自宅に帰ってきた。

効果音 (仕事を終えた純一が自宅に帰ってくる。玄関ドアの開閉)

純一 ただいま。

江理子 お帰りなさい。

純一 あー寒い！ 雪降ってきたよ。いやぁ疲れた！ 玄関入った途端に眠くなっちゃった。

江理子 毎晩大変ね。たまには美希と一緒にご飯食べてほしいんだけど、なかなかできないわね。

美希 パパ。美希もうご飯たべちゃったよ！

純一 ごめん…仕事が終わらなくてさ。君もパートで大変だから食器洗いは俺がやるから。

江理子 いいわよ、私やるから。その代わりに、美希を寝かしつけてくれる？ 眠いでしょけど、あの子にも、あなたにも必要な時間だと思うわ。

純一 そうだね、分かった。

効果音 (電話の着信音。江理子受話器を取る)

江理子 もしもし佐川ですが。あ、お母様？ どうされました？ ええ、変わりないですよ、美希も、純一さんも。でも今すごく忙しくて、毎晩遅いんです。今日もさっき帰ったばかりで。今代わりますね。あなた、お母様から。

純一 え？ おふくろが？ 珍しいな。はい、もしもし。

純一の母 (フィルター音) 純一、元気にしてる？ 江理子さんから聞いたけど、お仕事大変みたいね。遅くに悪いかなど思ったんだけど、早い時間じゃつかまらないし、お父さんとも話して、やっぱり、ひとこと直接励ましてあげたいと思って。結婚式の時に私があげた聖書読んでみた？ きっと何か心に響く言葉があるからぜひ読み続けてみて。お父さんとお祈りしてるわね。純一、本当に苦しいときは、神様に祈ってごらん。神様、ちゃんと聴いてくださるから

純一 あ…うん。忙しくてなかなかそこまで行かなくて。でも頑張ってみるよ。今日は遅いから、切るよ。

純一の父 もしもし、純一か？

純一 親父もかよ…。あ、お父さん、ご無沙汰。元気？

純一の父 (フィルター音) ああ、元気だ。いやなにね、江理子さんからお前がかなり忙しくて、大変そうだって聞いたんで、母さんと、ちょっと励ましてあげようかと思ってさ。私もお前ぐらいの年の頃は、大変だったよ。よほど転職のことも考えた。でも何とか切り抜けたのは、信仰の力だったと思ってる。聖書にも「神様は耐えら

れないような試練は与えないし、ちゃんと脱出できる」(1コリント10:13 簡略形)と書いてあるんだ。夫婦二人で力を合わせればきっと乗り越えられるよ。うちでも毎日お前のために祈ってるから。

- 純一 お父さん。…ありがとう。なんか、少し勇気が出てきたかな。心配かけてごめん。それじゃ…おやすみ。
- 効果音 (純一の携帯電話が鳴る)
- 純一 今度は室長からだ。もしもし。あ、こんばんは。こんな時間に、どうしました、室長？
- 竹田室長 (フィルター音) ああ。君、今日は緊急対応の当番だろ？ さっき病院から私に電話があつて、2 病棟の山岡さんが病院を抜け出したらしい。さっきコンビニの駐車場で倒れてるのを発見されたんだそうだ。幸い一命は取り留めたようだが、山岡さん、君の担当だろ？ 悪いがすぐに行ってくれないか。
- 純一 え…山岡さん、またですか…。認知症の進行が早いのか、家に帰りたくて仕方がないのか…。しかし今からかあ…うーん…分かりました。これから対応します。
- 竹田室長 (フィルター音) すまないが頼んだぞ、また明日、経過を報告してくれ。
- 純一 ごめん、江理子、美希、緊急の要件が入った。パパまた仕事に行ってくる。
- 江理子 大変ね。じゃ寝てるわね。明日があるから。学校のPTAの保護者会に出なきゃならないの。それと、あなたのほうは日曜日の教会、忘れないでね。いつもと違う教会だから少し早く起きないと。
- 純一 え？ いつもの教会に行かなくていいのかい？
- 江理子 あら、私が習ってるゴスペルクワイヤの田村さんが日曜日にご自分の教会で洗礼受けるから、そっちに行くって言ったでしょ。
- 純一 ああそうだったね。ごめん。分かった。
- 江理子 ううん、私こそ、あなた日曜日しか休めないのに、内心、「悪いなあ」と思ってるのよ。でもお世話になってる田村さんの洗礼式、ぜひ「おめでとう」を言いたくて。帰ったら、なんにもさせないから、ゆっくり休んで。ほんと、ごめんなさい。
- ナレーション 俺は、急いで病院の救急外来に向かった。着いてみると、先程救急車で運ばれてきた山岡さんの容体はだいぶ落ち着き、息子さんと何やら大きな声で話合っていた。
- 山岡の息子 もう！ 父さん、いい加減にしてくれよ！ これで何回目だ？ 病院にいられなくなるぞ！
- 山岡 うるさい！ 俺はどことも悪くないのになんで病院にいなきゃならないんだ！ それにさっきかみさんが迎えに来て俺を呼んでたから、外に出て付いていっただけだろ！
- 山岡の息子 何言ってるんだ！ 母さんは10年も前に亡くなってるだろ！ あーあ、すっかりボケちまって…。
- 純一 あのー…お取込み中すみません、山岡さん。大丈夫ですか？

山岡 あー！ 田中さん！ いつもお世話になってます。外でつい足を滑らせて転んでしまっ。でももうこの通り大丈夫です。

純一 あ、私、佐川です。息子さん、初めまして。私、山岡さんの担当をさせていただいているソーシャルワーカーの佐川と言います。

山岡の息子 あ、いつも父がお世話になっています。あの…いきなりこんな話もなんですけど…。うちの父、すぐ退院、なんてことにならないですよ？ 私も仕事が忙しくて、とても家では対応できないんですよ。何とかお願いします。

山岡 だから俺はどこも問題ない！ 若い頃は、ガダルカナルでジャングルの中を毎日何十キロも逃避行をした親父にしごかれて、重いリュックを担いで日本の高い山を片っ端から踏破して鍛えたんだ。お前らみたいなヤワな人間とは違うんだぞ！ それに俺は神様に守られて生かしてもらってるんだから。

純一 まあまあ、山岡さん、息子さん。ちょっと落ち着いたら今後についてお話ししましょうか。

ナレーション こうして、なんとか面接を終えた俺が。ようやく自宅に帰ったのは夜中の3時。体が重く感じられ、軽いめまいさえ覚えながら、俺はそのままベッドに倒れ込んだ。

純一(モノローグ) なんだか目がさえる…。疲れ過ぎだ…。何もかも嫌になってきた。俺、何やってんだろ…。毎日こんなじゃ身がもたない。ひょっとして過労死するかもしれない。

ナレーション その時、不思議なことに、電話のたびに話していた母の言葉が、俺の脳裏をよぎった。

純一の母 (エコー) 純一、本当に苦しいときは、神様に祈ってごらん。神様、ちゃんと聴いてくださるから。

ナレーション 俺は、重い口を開くと、思い切って祈ってみた。

純一 神様…。どうか俺を助けてください。重荷ばかり背負って死にそうです。とにかく…休ませてください。あの…義理だし、ほんの時々だけど、妻に付き合っ。教会にも通ってます。だから…お願いします。どうか安らぎを与えてください。体にも、心にも。…えーと、イエスの名前で、祈ります。アーメン…。

アナウンサー それは、純一の生まれて初めての祈りでした。それまで、どんなに苦しくても、神などには頼らないと固く決心していた純一でしたが、そのたどたどしい祈りを、神様は決して聞き逃しませんでした。

(前編終わり)

畠山裕樹作 「あるソーシャルワーカーの悩み」 (後編) — 永遠^{とわ}の休みを一

- 純一 神様…。どうか私を助けてください。重荷ばかり背負って死にそうです。とにかく…休ませてください。あの…義理だし、ほんの時々だけど、妻に付き合って教会にも通ってます。だから…お願いします。どうか安らぎを与えてください。体にも、心にも。…えーと、イエスの名前で、祈ります。アーメン…。
- ナレーション それは、俺の生まれて初めての祈りだった。少しでも弱い人の助けになろうとしてソーシャルワーカーになった俺だったが、その仕事は想像以上に過酷なものだった。疲れ果てた俺は、母の勧めを思い出し、真夜中に、心を絞り出すように、見えない神に祈ってみた。すると、不思議なことが起こった。俺は、自分の体から何かがフツと抜けたように感じた。体が軽くなり、なんとも言えない、落ち着いた、安らかな気持ちが胸の奥から溢れてきたのだ。
- 純一 (モノローグ) なんなんだ、これは？ こんな初めてのだよ。これって、キリストが行ったっていう“奇跡”なのか？ まさか！ そんなの、この現代にあるわけない。でも実際に体が…。祈りって、ほんとに聴かれるのか?!
- ナレーション 戸惑いながらも、俺は、言葉にならない安らぎの中で、まるで初めてのような深い眠りに落ちていった。翌朝…。
- 純一 江理子、美希。じゃ病院行ってくる！
- ナレーション 自分でもびっくりするような明るい声でそう言うと、俺は病院に向かった。
- 純一 おはようございます。室長。
- 竹田室長 おう、おはよう。昨夜は大変だったな。山岡さんどうだった？
- 純一 はい、何とか話し合って病院で治療を継続していただくことに納得してもらいました。
- 竹田室長 そうか、まああれだけ“脱走”を繰り返しているから、病院としても退院方向で検討しようかとの話も出てたが、まだ脳梗塞後の経過が落ち着いていないから、とりあえず継続で正解だろう。あ、君の担当の池田真理さんだが、今朝早くに荷物をまとめて退院したそうさ。
- 純一 え、退院？ なんで？
- 竹田室長 なんでも、ご家族が世話をしてくれることになったらしい。まあ病院としては近いうちに退院という話だったから、強く引き留めはしなかったそうさ。
- 純一 ご家族ですか？…だからってあの体じゃまだ早いし、自宅での生活の準備もあるはずなのに。どうしたんだろう？
- 竹田室長 お前の担当だったからな。気になるなら本人に連絡して、家での様子を見てきたらどうだ？ 今日は土曜だから少し時間的にも余裕はあるだろ？
- 純一 はあ…分かりました。心配なのでそうさせていただきます。
- 効果音 (純一、真理に電話する)

純一 あ、もしもし池田さん？ 今、お電話大丈夫ですか？ ビックリしましたよ、急に退院だなんて。

真理 (フィルター音)あ、佐川さん、すみません、連絡もせずに急に退院なんかして。でも教会の人もうちにきて色々手伝ってくれたし、今、ちょうど母も自宅にいるので心配しなくても大丈夫ですから。何とか自宅で頑張ってみます。

純一 え？ やっぱりお母さんが来られてるんですか？ それはよかった。でもまだ心配ですし、退院時の書類もあるので、今日、午後にもお伺いさせていただいてもよろしいでしょうか？

真理 (フィルター音)はい…分かりました。私もきちんとご挨拶していなかったですし…。ではお待ちしております。

ナレーション その日の午後、俺は郊外にある池田さんの家を訪れた。玄関では、俺も初めて会う彼女の母親が出迎えてくれたが、池田さんは奥のソファに体を横たえ、苦しそうにあえいでいた。

真理の母 わざわざすみません、佐川さん。初めまして、真理の母です。本人が出迎えず申し訳ありません。退院後の疲れもありまして、どうか大目に見てやってください。

純一 とんでもない！ こちらこそ、お疲れのところ申し訳ありません。

真理の母 さあ、どうぞこちらへ。

純一 では失礼します。(奥のソファのところに案内される。)池田さん、体調は大丈夫ですか？

真理 (荒い息遣い)ごめんなさい。ちょっと自宅に戻ってから体の痛みが強くて、動くのが響くものですから…。横になったままで失礼します。

純一 いえいえ！ 本当にご無理なさらないでください。すぐ失礼しますから。池田さん、退院後の生活のことは大丈夫なんですか？ すぐホームヘルパーなどの手配をしないと大変だと思うんですが…。

真理 すみません。急な退院でそういった手続きも相談せずに…。でも私、早く家に帰りたかったんです。その…余命のこともありますけど…少しでも亡くなった主人と思い出の深いこの家で過ごしたくて…。それに早く教会に行って皆さんのお顔が見たくて…。

純一 棚の上の写真、ご主人ですか？

真理 ええ。去年、心不全で急に亡くなってしまったんですよ。私のがんは、教会の皆さんのお祈りもあって、一度は奇跡的に治ったんです。それで、教会で出会った主人と結婚した時、「温かい家庭を築いていこうね、子供は3人くらい欲しいね」って話してたのに…。あの人とずっと仲良く暮らしたかったのに…。それが、私はがんが再発してこんな体になり、一生懸命看病してくれた主人は、あっけなく先に天国へ行ってしまって…。

純一 ほんとに、なんて申し上げたらいいか…。おつらかったですね。

真理 クリスマンなのに、思わず“運命ってなんて残酷なの?!”って心で叫んでしまいました。それからしばらくは、ひどい落ち込みだったんですけど、牧師の鈴木先生に病院で毎日話を聞いてもらい、また聖書のお話をさせていただいて、ずいぶん救われたんです。完全に心が穏やかになってわけではありませんけど…。

純一 そうだったんですか…。ご主人のこと、すみません、なんにも知らなくて…。ご自分の病気だけでも大変なのに…。

真理 ありがとうございます。本当に、信仰を持っていなかったら、主人の跡を追っていたかもしれません。主人は、忙しい仕事の中で、本当によく私を看病してくれましたので、亡くなった時、“私のために無理をしたので、命を落としたのでは、それが私の罪なのでは”、と、思って、すごく落ち込みました。もう生きている価値はないんじゃないかって。そのことを話したら、鈴木先生はこうおっしゃいました。

鈴木牧師(回想) 池田さん、そんなことはありません、絶対に。あなたはこの世でたった一人、かけがえのない存在です。そのままで、生きていていいんです。それに、ご主人が亡くなったのは、私たちには分からない神様のみ心で、決してあなたの罪ではありません。あなたがイエス様を信じた時に、あなたの全ての罪は赦されています。

真理 もう私、涙が止まりませんでした。それで今、私、こうしてまだ生かされているんです。体は苦しいですが、心は穏やかです。やがて主に召されても、主人とまた天国で会えますよね。(息遣い荒くなる)すみません、長く話したら、ちょっと疲れました。寝室にさがっていいでしょうか？ 書類は母に説明してもらってかまいませんから。

純一 あ、すみません！ どうぞお休みください。ご無理をさせて申し訳ありませんでした。また体調が落ちついたら、お話ししましょう。

真理の母 すみませんね、佐川さん。せっかく来ていただいたのに。でも、少しだけお話聞いていただけますか？

純一 え？ 私は構いませんが、よろしいんですか？

真理の母 ええ。これだけは、あなたにもお伝えしておきたい。あの子と私の関係があまりうまくいってなかったのはご存じだとは思いますが、その原因の一つが先程のキリスト教の話で…。うちは仏教なんですけど、あの子が亡くなった隆さんと婚約する時に、こんなことを言いました――。

真理(回想) (20代) 母さんにはよく分からないかもしれないけど、私はクリスマンの隆さんと交際する中で、神様と、そのみ子イエス様に会い、信じるようになった。だから私もクリスマンになりたいの。私、洗礼を受けるから！

真理の母 私は女手一つで育てた一人娘のあの子に仏壇を守ってほしかったもんですから、当然反対したんですけど、あの子は私の言うことを聞いてくれなくて…。それでつい私も意固地になって、「洗礼なんか絶対に認めないし、隆さんとの結婚も認めない。キリスト教徒になるなら親子の縁を切る」とまで言ってしまって…。

それであの子、実家を出て行ってしまったんです。それから4年くらい互いに連絡も取らずじまいで…。

純一 そうだったんですか…。

真理の母 でも病院から私に電話があって、あの子のがんの再発のことを知りました。あの子、連絡先に私の電話番号を伝えていたみたいで…。最後にはやっぱり母親のこと思ってくれたのかなって考えたら、今更ながら娘のことがいとおしくて…。それで、あの子と病院で再会して何度か話すうちに、お互いに徐々に理解し合えるようになって…。それで私も「退院して家で最期を迎えたい」というあの子に同意して、今朝病院に迎えに行った次第です。

純一 そうだったんですか…。かけがえのない親子ですもんね。一緒にいたいのは当たり前だと思います。それだけに娘さんのご病気のことはおつらいですよ。

真理の母 佐川さん、ホームヘルパーの手配なんかはまだ急がなくて大丈夫ですよ。あの子も見ず知らずの他人に自分の今の姿を見られるのはつらいって言ってますし…。それに私、しばらくここに滞在して真理の世話をしたいと思っています。

純一 そうですか。それを聞いてとても安心しました。真理さんも喜ばれるでしょう。でもお母様も決してご無理はなさらないでください。こちら今後の生活のことを一緒に考えさせていただければ幸いです。また連絡をさせていただいてもよろしいでしょうか？

真理の母 もちろんです。私たちも、退院してからも生活の事を相談できる方がいてくださることは心強いです。

ナレーション 俺は病院に戻り、室長に池田さんとの面談の経過を伝えた。病院では、相変わらずの大量の書類作りが待っていたが、その仕事に追われながらも、俺の心には、池田さんの語った鈴木牧師の言葉が響いていた。

鈴木牧師(回想)(エコー) あなたはこの世でたった一人、かけがえのない存在です。そのまま、生きていていいんです。…あなたがイエスを信じた時に、あなたの全ての罪は赦されています。

純一 (モノログ)「この世でたった一人、かけがえのない存在か…。キリストって、俺のこともそう思ってくれるのかな。」

ナレーション こうして迎えた日曜日の朝、俺は、妻の江理子、娘の美希に連れられて、郊外にある初めての教会にやってきた。

江理子 きれいな教会ね。すてき。

美希 うん、大きいんだね。

純一 ん？ 入口の看板に何か書いてあるぞ…なに？ (読む)「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。マタイ11章28節…。」あ、これってあの鈴木牧師が言ったキリストの言葉だ。あの時も結構説得力あったけど、今度はなんか、俺に向かって言ってるみたいだな。はい神様、疲れてます。重荷でつぶされそうです。だから

教会に来たんです。お願いだ、休ませてください！

江理子 (オフから)あなた、どうしたの？ (オン)一緒に来ないので後ろ見たら、何か看板の前で独り言言っていたみたいだけど…。

純一 あ、うん、あのキリストの言葉が妙に気になって…。つい心の思いをぶちまけてっというか…。

江理子 あ、そうだったの。ほんと、あなた疲れてたから。それで思い切ってイエス様に祈る気持ちになったのね。よかった！ 「そうなりますように」ってずっと祈ってたのよ。

純一 え？ そうだったの？ なんか…、うれしいな。

鈴木牧師 おはようございます！ ようこそいらっしゃいました！ おや？ あなたは確か…。

純一 あれ？ 鈴木先生！ どうしてこちらに？

江理子 あなた、鈴木先生とお知り合いなの？

鈴木牧師 そう、私はこの教会の牧師なんですよ。やっぱり神様のお導きですね。どうか、ゆっくりくつろいで行ってください。あ、そうだ、池田さんも来てますよ。

純一 え？ あ、そうか！ 池田さんもこの教会に通ってるんですね。昨日あんな状態だったのに、もう大丈夫なのかな…。

真理 佐川さん！ ようこそいらっしゃいました。今日はどうしてこちらの教会へいらしたんですか？ (荒い息遣い)あ、ごめんなさい、息が切れて…。

純一 池田さん、大丈夫ですか？ 無理しないほうが…

真理 いえ、(息を整えながら)家にいるよりこうして教会に来た方が落ち着くんですよ。それに今日は大事な友達の洗礼ですから。

江理子 担当の患者さん？ 由美の…、あ、田村さんのお友達なんですね。私も同じゴスペルのメンバーなんです。

真理 まあ、そうでしたか。佐川さんとは何から何までつながってるんですね。本当に神様のお導き。(二人、笑う)

純一 そうですね。田村さんて方の洗礼、しっかり見させていただきますよ。

ナレーション こうして教会での洗礼式が始まった。田村由美さんは少し緊張した面持ちだったが、それでもまぶしいほど輝いていた。

鈴木牧師 田村由美さん、私は聖なる父と聖なる子と聖霊の名によってあなたに洗礼を授けます。

効果音 (浸水の音)

江理子 由美、バプテスマおめでとう！

美希 おめでとうございます。

純一 あ、あの…おめでとうございます。江理子がお世話になってます。

効果音 (ガヤ:周囲の人たちも祝福する)

真理 おめでとう田村さん。あなたの洗礼を見ることができて本当によかった。祈りが聞かれたわ…。

ナレーション 俺は帰りがけに、迎えに来る母親を待っていた池田さんが教会のホールの椅子で休んでいるのを見つけた。そっと近づいてみると、彼女は、うれしそうに何かをつぶやいている。

真理 「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。」
(ヨハネ 11:25, 26)

純一 池田さん、ひょっとして、それも聖書の言葉ですか？

真理 ええ、そうです。イエス様のお言葉なの。私、毎日これを唱えてるんです。

純一 へえ、そうなんですか。なんか、…いい言葉ですね。死ぬのが、怖くなくなりますね。…あ、ごめんなさい！

真理 いいんです、そのとおりですから。それに、私が唱えるのを聞いてるうち、母も覚えちゃったんですよ。

純一 え、そうですか！ あなたの信仰には反対だったのに…。

真理 ええ、私もう、うれしくて…。

純一 よかったですね。

ナレーション それから3週間ほどたった、ある日。病院の医療相談室に一本の電話がかかってきた。(バックに呼び出し音)

効果音 (受話器を取る)

純一 はい、もしもし医療相談室佐川です。あ、真理さんのお母さん。どうされました？ え!!

ナレーション それは、池田さんの死を知らせるものだった。その日が遠くないことは、ひそかに覚悟はしていたが、やはり心にぽっかり大きな穴が空いたような悲しみが、俺の心を襲った。

効果音 (教会。静かなガヤと葬送音楽)

真理の母 まあ、佐川さん。来てくださったんですね。ありがとうございます。真理も喜ぶと思います。

純一 この度は…なんと申し上げたらいいか…。

真理の母 おとといの朝、寝室にあの子の様子を見に行ったら、息を引き取っていました。いつかこうなるとは分かっていたんですけど、やっぱり悲しすぎて…ううっ(嗚咽)。でも、とつても穏やかな顔で、まるで眠っているように、少し微笑んでいて…。こんなこと言ったら何ですけど、真理は死ぬ間際まできっと幸せな気持ちだったんじゃないかなと思うんです。

純一 ええ…きっと真理さんはキリスト教で言う、神様、イエス様の愛に包まれながら幸せに旅立たれたと思いますよ。生前、うれしそうに、もうすぐ旦那さんと天国でまた会えると話していましたから。それに長く離れていたお母さんとまた一緒に過ごせましたし…。真理さんは本当にすてきで幸せなご生涯を送られたと思います。私も真理さんに尽くさせていただいたことに感謝します。多くのことを学ば

せていただきました。

真理の母 佐川さん、ありがとう。本当にありがとうござ…ううっ(再び嗚咽)。

ナレーション その時、俺の心に、3週間前、あの教会の待合室で、池田さんがうれしそうに口ずさんでいた聖書の言葉がよみがえってきた。

真理(回想) (エコー)「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。」

純一 (モノローグ)池田さん、あんなに苦しそうだったのに…。がんという大きな病を抱えて、その想像もできない痛みと闘うのに、どれほど疲れていたか知れないのに…。あの聖書の言葉を言ってる時の彼女は、ほんとに安らかだった。なぜだろう。どうしてあんなに安らかでいられたんだろう？

ナレーション その時、俺は気づいた。池田さんは、イエス・キリストのもとに、全ての重荷を下ろしていたのだと。そして彼女は今、「わたしを信じる者は、死んでも生きる」と言われたキリストのもとで、全ての痛みや苦しみから解放されて、永遠の休みを頂いたのだと――。

純一(モノローグ) だとしたら自分も、キリストを信じたら、重荷と疲れの染みついたこの体と心を、本当に休ませてもらえるかもしれない…。

ナレーション 俺には、池田さんのいる天国が、ほんの少し近くなったような気がしたのだった――。

(完)